



Hankと共に

名前	平林 真澄
所属部署	自然科学研究機構 生理学研究所 行動・代謝分子解析センター
職種	准教授
この研究室に入った日	2002. 4. 1.
出身地	愛知県一宮市
趣味	顕微操作全般 プロ野球 (NPB・MLB) 観戦

インタビュー

Q1 現在の研究室の仕事内容を教えてください。

マウス・ラット・ウサギを対象にして遺伝子改変動物の作製に研究生活の半分以上を費やしてきました。ここ数年、胚盤胞補完法による「臓器欠損動物の“空き”に幹細胞由来の臓器を再生する」というテーマに取り組んでいます。

Q2 研究室の仕事の進め方は？

生殖工学技術のいくつかについて「マウスでは出来て、なぜラットでは出来ないの？」の答えを探し、マウス生殖工学を専門として大活躍されている先生方の軌跡を追いつけています。

Q3 まだ実験をしていますか？

卵子のマニピュレーションを始めて30年が過ぎましたが、頭脳の足りない分はテクニクでカバーすべく老体に鞭打って働いています。「生涯現役」を貫き通すこと、これが目標です！

Q4 この分野に入ったきっかけは何ですか？

雪印乳業研究員の時、後輩の保地 眞一氏（現信州大学 教授）にトランスジェニック動物を利用した「動物工場」研究に否応なく担ぎ出され、そこでの業績により1997年に名古屋大学で博士号を取得しました。共同研究名目で生理学研究所の客員准教授ポストを八木 健先生（現大阪大学大学院 教授）に準備して頂いたことから、まったく想像もしていなかった私のアカポスキャリアが始まりました。

Q5 今、何を一番知りたいですか？

異種間胚盤胞補完法でマウス体内に再生させたラット幹細胞由来の膵臓はマウスサイズになることを確認しました（Cell 142, 2010）。ところがマウスとラットを逆にした場合、再生臓器サイズは大きくばらついていました。家畜（例えばブタ）の体内でヒトの幹細胞由来臓器を再生させたとき、その臓器サイズはどうなってくるのでしょうか？

Q6 「総合研究大学院大学（総研大）」って何なのでしょう？

我が国で初めて、いわゆる独立大学院（学部を持たず大学院だけを置く大学）として設置されました。総研大・生命科学研究所 生理科学専攻において、博士後期課程と5年一貫制博士課程を持ち、優れた教授陣ならびに研究環境を強みにして、学術研究の新しい流れに先導的に対応できる研究者を養成します。興味のある方は、生理学研究所ウェブサイト (<http://www.nips.ac.jp/graduate/top.html>) をご覧下さい。

Q7 今、気になっていることは何ですか？

科学研究費採択の可否、第111回繁殖生物学会の成功、東海地震、次期内閣総理大臣、定年後の再就職先、日本シリーズとMLBワールドシリーズの行方、中日ドラゴンズのドラフト指名、などなど。